



07 愛知県 | 邸

美しい日本の文化を伝えたい。 古民家のような佇まいの 「着付け教室」

緑豊かな風景が広がる郊外の住宅地の一角にある、切妻の屋根に格子をあしらった古民家のような佇まいの建物。その家はIさんご夫婦の新しい住まいであると同時に、奥さまの仕事場の着付け教室でもあります。障子越しのやわらかな光に浮かび上がる日本の伝統的な空間を舞台に、奥さまが今日もたくさんの生徒を教えています。

「着付けの免状をとってから、会場を借りて教えることもありましたが、やはり自宅で、しかも、日本ならではの空間の中で着付けを教えることができるのは、とても幸せなことです。こういう部屋だからこそ、生徒たちに襖の開け方や正座の仕方など、作法や立ち居振る舞いも含めて教えることができます」と奥さま。

Iさんご夫婦がこの住まいの計画にあたって希望したことは2つありました。1つは着付け教室にふさわしい古民家のような落ち着いた佇まいにすること。もう1つは、着付け教室とご夫婦の生活の場とを区切り、暮らしてプライバシーをしっかり確保することでした。

ご要望だった古民家のような佇まいをつくりあげるために、設計担当の真狩が最初に検討したのは、軒や天井、建具などの高さです。

1 着付け教室の場所は玄関横の和室です。建具の高さをあえて低くすることで、古民家の佇まいをつくりあげています。障子越しのやわらかな光が、着物の美しい色を引き出します。2 深い軒の出や格子など細部にまでこだわり、外観をご要望の古民家らしい佇まいに仕上げました。

